



茨城港常陸那珂港区外港地区で

うみの現場見学会 開催

学生 20 人が参加！ 海上工事の魅力やスケールの大きさを実感



日本埋立浚渫協会は8月1日、第29回「うみの現場見学会」を茨城県ひたちなか市の茨城港常陸那珂港区外港地区で開きました。茨城大学の工学部と大学院理工学研究科から土木工学を学ぶ20人の学生と3人の教員を招き、沖合で建設中の防波堤を案内しました。普段の生活では近くで目にする機会の少ない海上工事の魅力やスケールの大きさ、施工を支える高度な技術、担い手の役割などを知っていただきました。学生にとっては講義では味わえない貴重な体験となったようです。

茨城港常陸那珂港区は北関東地域の海上物流の玄関口として、茨城県の太平洋沿岸のほぼ中央部に位置し、ひたちなか市と東海村にまたがる広大な土地(面積1,182ha、海岸線5.5km)に整備されています。

今回見学会を開催したのは、国土交通省関東地方整備局が発注し、五洋建設が施工する「令和5年度茨城港常陸那珂港区外港地区東防波堤築造工事」(工期2024年2月6日～25年2月28日)の現場です。計画延長が国内最長の6kmに及ぶ防波堤のうち南側の一部を築造しており、基礎工や本体工、被覆・根固工、上部工を進めます。

見学会に先立ち、現場の説明を関東地方整備局鹿島港湾・空港整備事務所茨城港出張所で実施しました。日本埋立浚渫協会の山下朋之企画広報委員長は「工事の様子をご覧いただきながら、防波堤の整備によって得られる効果に興味を抱いてほしいです」と述べました。続いて鹿島

港湾・空港整備事務所の大谷琢磨所長が事業概要を説明し、「海洋土木の現場に触れる機会はなかなかないと思うので魅力を感じてほしいと思います」と呼び掛けました。

説明を受けた後、学生らは4班に分かれて小型船に乗り込み、沖合で進む防波堤築造工事の現場を間近で見学しました。船上では現場責任者から説明を受けながら海上に据え付けられた国内最大級のケーソンを臨み、陸上では味わえない巨大な海洋構造物のスケールに驚いた表情と声を上げていました。

見学後は工事関係者との質疑応答が行われ、学生らから「現場で働いている人は事故やけがを防ぐためにどのような対策をしているのですか」「防波堤は海の生態系にどのような影響を与えていますか」「陸上工事とのコストの違いはどこにありますか」「ケーソンの寿命はどのくらいですか」といった、率直な疑問から専門的な内容に至る幅広い質問が寄せられました。



事前説明を聞く参加者



茨城港常陸那珂港区外港地区位置図



現場へ向かう船上で説明を聞く参加者